

## 7 成果の普及・発信

本節では、本校におけるSGHの取り組みや課題研究の成果について、どのような形で普及・発信を行ってきたのかを示したい。

### 7.1 ポスター集の配布とそれに対する評価

前述の通り、本校では国際教養やISSチャレンジを通じて生徒が課題研究に取り組んでいるが、外部評価会・グローバルカフェといった校内における成果発信の場や外部で開催される研究成果発表会などの研究発表の場で、自らの課題研究の成果を発信・発表できる生徒は、課題研究に取り組んでいる生徒の中でも限られてしまうという現状がある。生徒が取り組んでいるより多くの課題研究の成果を、学校の内外を問わず普及・発信できる手段として、課題研究のポスター集作成を実施した。

ポスター集作成には主に二つの目的があり、一つ目の目的は課題研究の成果を学校内外に普及・発信することである。本校では課題研究の成果をまとめたものとして論文集を発行しているが、論文集はその形態や性質上、その内容が常時人の目に触れることはなく、研究成果をより多くの人々に知ってもらう手段としては限界があると考えられる。それに対して、今回作成したポスター集は、生徒が作成した研究ポスターに月めくりカレンダーの機能を付与したことで、年間を通じて人の目に触れるように工夫を施した。これによって、より多くの人々に課題研究の成果を普及・発信することを実現したと考えている。

二つ目の目的は課題研究に取り組む生徒の研究成果をまとめる能力・技能の向上である。研究ポスターは研究論文と異なり、自身の研究内容や成果をわかりやすく端的にまとめ、視覚的に有効な形で表現することが求められる。課題研究において、研究成果をわかりやすく発信することは重要なポイントであり、生徒にそうした機会をより多く提供することで、研究成果をまとめる能力・技能の向上を目指した。27年度のポスター集に収録したポスターは、27年度のISSチャレンジにおいて、セミファイナリストに選出され、校内の課題研究成果報告会に向けて研究ポスターを作成した研究グループの中から選ばれたものである。本年度(28年度)は、さらに研究ポスターを作成する機会を増やし、最終的な研究成果をまとめるポスターの作成に加え、10月のスクール・フェスティバル(文化祭)に向けて研究経過の報告を目的としたポスター作成も実施した。またポスターを作成する対象者についても、前年度のISSチャレンジセミファイナリストを対象にした形から、本年度はISSチャレンジにエントリーしたすべてのグループがポスターを作成する方針に改め、より多くの生徒が研究成果の普及・発信を目指せる形をとっている。

27年度のポスター集については、本校の研究開発実施報告書や課題研究論文集と同様に、全国のSGH指定校に配布した。また、本校SGH運営指導委員をはじめ、昨年度の活動でご協力いただいた関係各所にも配布させていただいた。さらに、6月の本校公開研究会においても、SGH情報交換会の場で希望される参加者に配布した。配布先からは、課題研究の成果が常に見える形にあることで、生徒の課題研究を意識する機会が増えたという意見や、掲示されたポスター集に収録されていたポスターの内容に興味を抱き、本校へ問い合わせるきっかけとなった事例が生まれるなど、当初の目的を達成すると共に、想定していた以上の反響をいただいた。

研究成果の普及・発信というと、どこか硬いイメージを持つことも多いが、日々目に触れるところに掲示できるポスター集を発行することで、生徒の研究成果を目にする機会も増えると共に、生徒にとっても研究ポスターの作成にあたってのモチベーションにも一定の効果がみられる結となったのではないだろうか。本年度もポスター集の作成を進めており、ISSチャレンジにエントリーしている研究グループの中から選抜された、新たな研究成果が全国へ向けて発信される予定である。

## 7.2 Facebook の活用

昨年度、実験的な運用として開始した SNS を活用した情報発信を、本年度は本格的に運用していった。その中で、昨年度から運用している Facebook の活用事例を中心に示したい。

テストケースとして開始した Facebook の利用であるが、双方向のコミュニケーションは可能となる情報発信手段としてウェブページと共に、本校 SGH の情報発信の両輪となっている。

昨年度運用を始めた Facebook ページ「東京学芸大学附属国際中等教育学校\_sgh」では、本校における SGH に関する取り組みを中心に、課題研究支援セミナーや外部発表会の様子を公開していった。このページは閲覧制限のない公開ページであり、学校の内外問わず誰でもみることができる。4 月から月に 2～3 回更新というペースで情報発信を行っていったが、時間を経るにしたがって少しずつ閲覧者も増加してきた傾向がみられる。また、Facebook の「シェア」機能や「いいね」機能を活用していくことで、本校にこれまで関わりのなかった人であっても、本校 SGH の Facebook ページをシェアしている本校関係者を通じて、取り組みの記事に触れ、コメントを残してくれるといった事例も徐々に増えてきている。また、生徒の課題研究に関する投稿に興味をもってくれた方がさらにシェアしてくれることで、予想していた以上の情報発信力を感じることも度々みられた。ただ、活動に関する投稿のタイミングの難しさや情報を投稿・管理する人員が限られてしまうといった問題点・改善すべき点もある。今後も投稿する情報については、プライバシー配慮に万全を期しながら、次年度以降も継続的に情報発信を行っていきたい。

Facebook を活用したもう一つの取り組みとして「TGUISS SGH サポータークラブ」がある。これは Facebook のグループ機能を活用し、本校卒業生による SGH 活動支援を目的に作成したグループである。本校卒業生のうち、これまでの SGH 活動に協力してくれた、または協力の意思を示してくれている者を中心にメンバーを構成し、支援をお願いしたい活動に関する情報提供を行っている。本年度は課題研究へのサポートを中心に、協力してくれる卒業生を募る手段として活用された。課題研究やフィールドワークにおけるサポート役として卒業生の協力は欠かすことのできないものとなっていることに加えて、今後 SGH の課題研究を経験した卒業生が大学へ進学していくことになることから、自身の経験や研究実績を在校生に継承していくことも考えられる。大学進学後に、SGH の取り組みがどのように活かされるのかもふまえ、卒業生との情報交換を活発化させるツールとして、このグループを活用していきたい。

東京学芸大学附属国際中等教育学校 SGH Facebook <https://www.facebook.com/tguiss.sgh/>

右：本校 SGH Facebook ページ



### 7.3. HPの更新

本年度、本校SGHホームページを更新した。新ホームページでは従来のページを刷新し、WordPressを用いてページを作成した。WordPressはPHPを用いたオープンソースのブログソフトウェアであり、テンプレートを用いることで、容易かつデザイン性に優れたPHPによる動的なページを作成することができる。また、ブラウザ使用環境があれば随時更新できるというメリットがあり、FTPソフトなどを介することなく更新できる。

WordPressはプラグインの導入により様々な機能拡張を簡単に行うことができ、今後さらなる更新によりシェア機能を導入するなど、校内外への情報発信力を高めることを検討している。

東京学芸大学附属国際中等教育学校 SGH HP [www.iss.oizumi.u-gakugei.ac.jp/sgh/](http://www.iss.oizumi.u-gakugei.ac.jp/sgh/)

下：本校SGHホームページ

